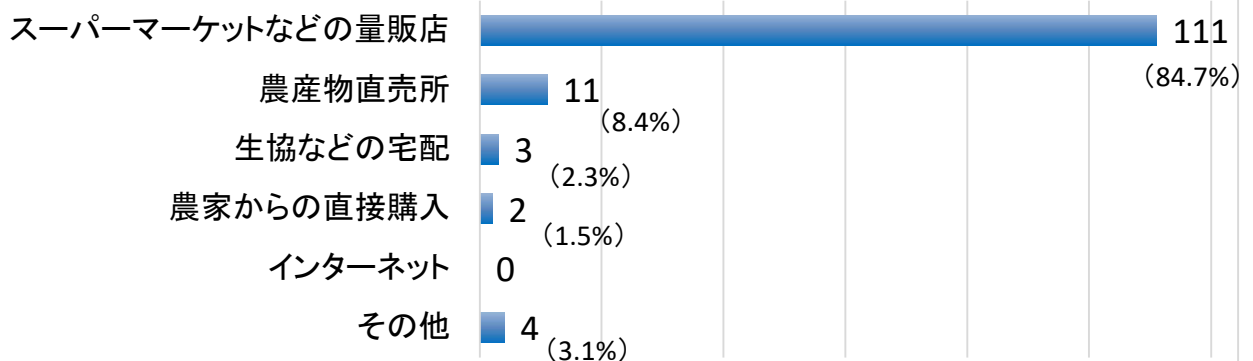


令和8年度第1回県政モニター調査結果

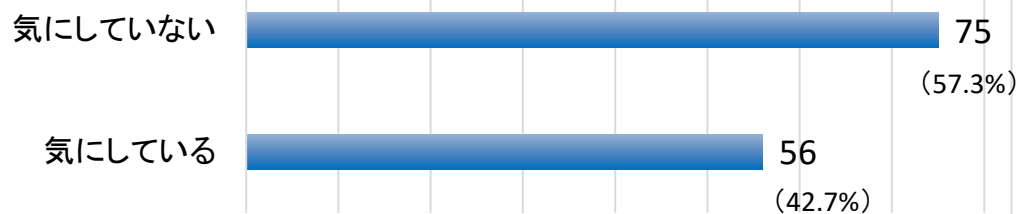
経営技術課 生産環境係
(TEL : 099-286-2891)

- テーマ 『有機農業や環境への負荷を低減する有機農業』に関する県民の意識調査について
- 調査の目的 有機農業や環境への負荷を低減する農業に関する調査を実施し、環境との調和に配慮した産地づくりの推進の参考とする。
- 実施月 令和8年5月
- 調査対象者数 200人
- 回答者数 131人 (65.5%)

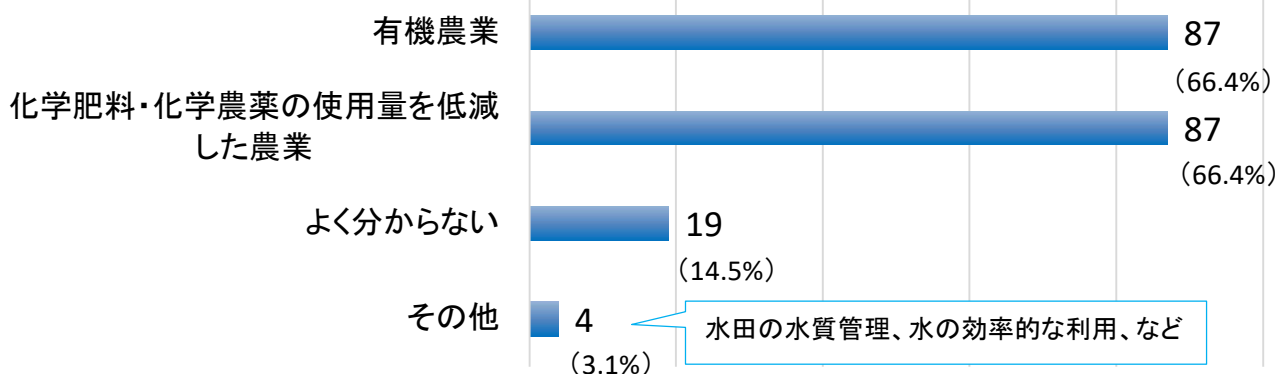
問1 農産物の購入でよく利用する方法は。



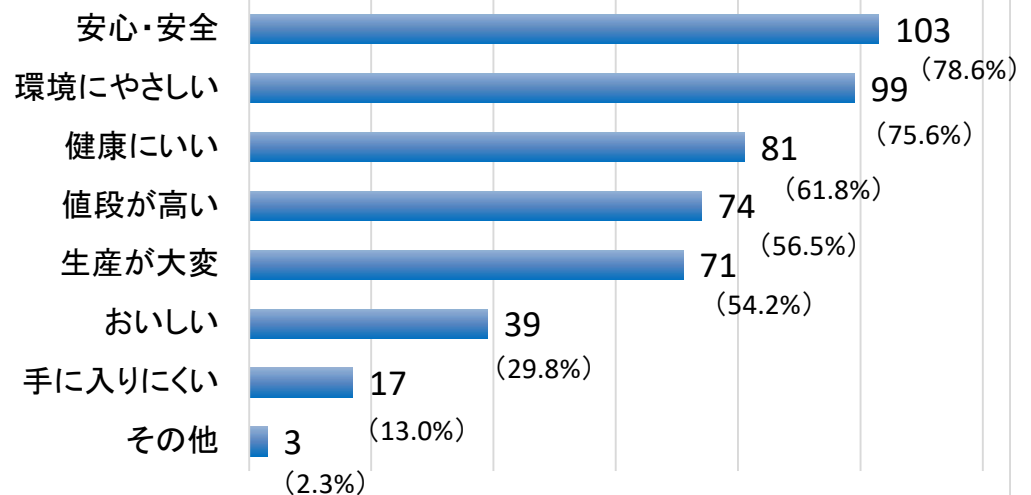
問2 農産物を購入する際に、包装にマーク（有機JAS、みえるらべるなど）が印字されていれば、気にしていますか。



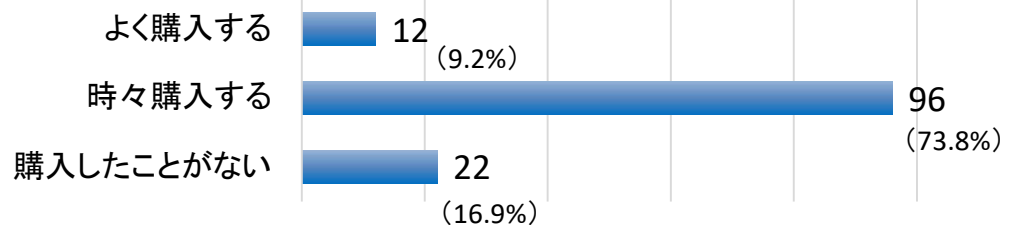
問3 「環境への負荷を低減した農業」のイメージとして当てはまるものは。（複数回答）



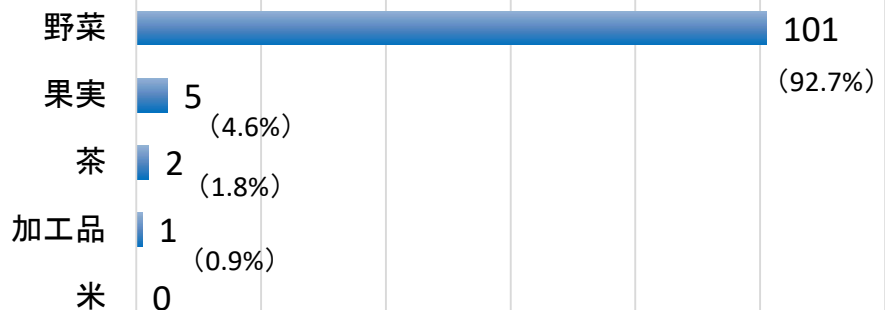
問4 「環境への負荷を低減した農業」で生産された農産物（有機農産物を含む）のイメージとして当てはまるのは。（複数回答）



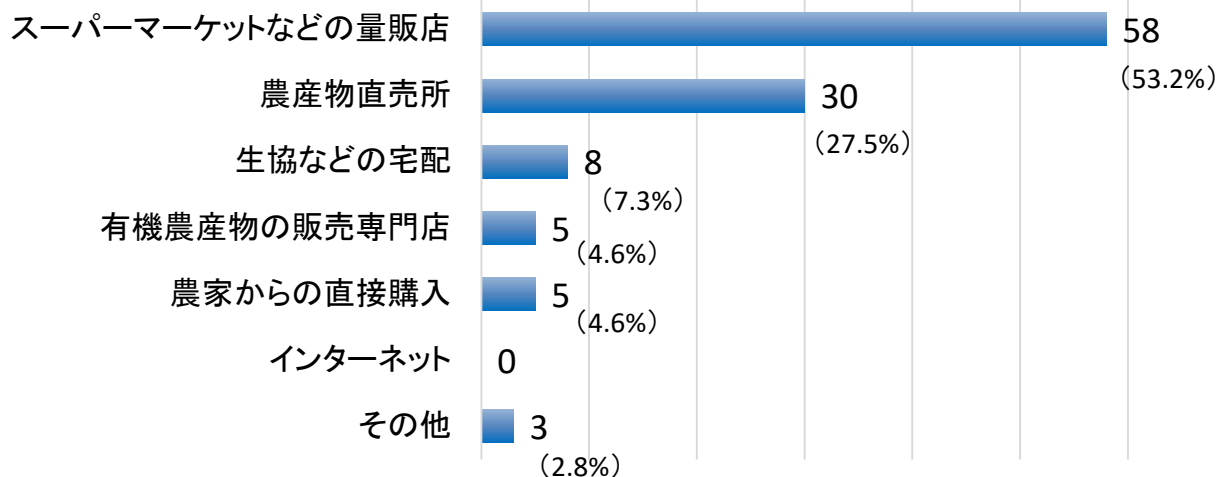
問5 有機農産物を購入したことは。



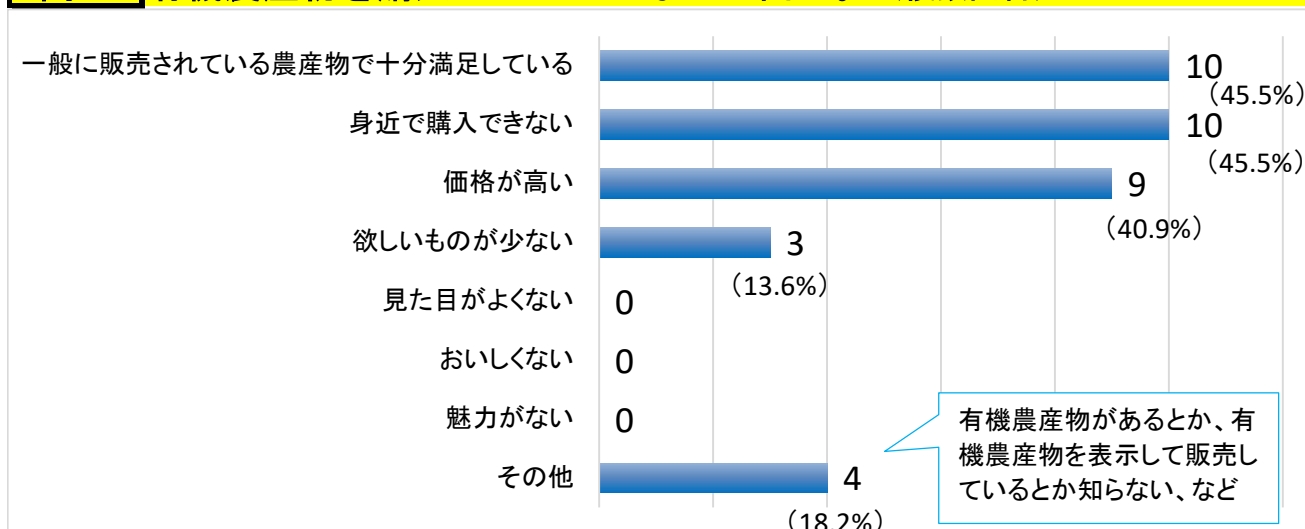
問6 購入する有機農産物等食品は。



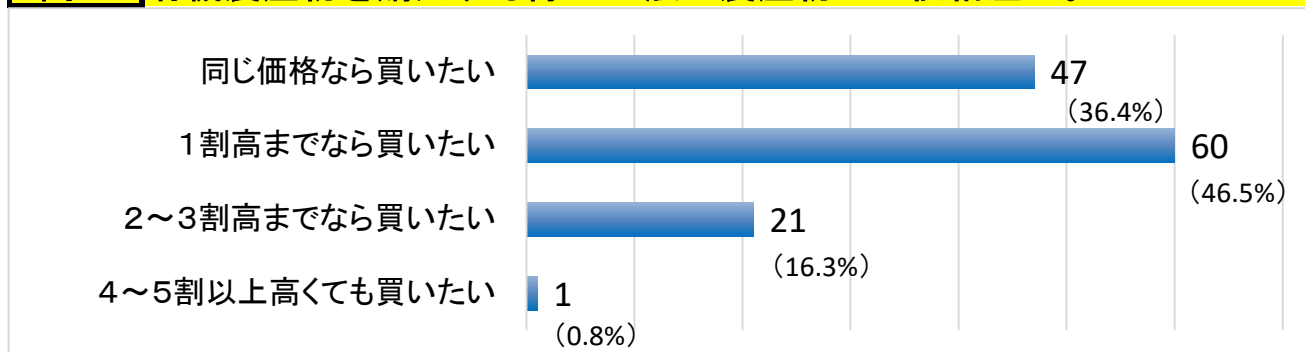
問7 有機農産物の購入でよく利用する方法は。



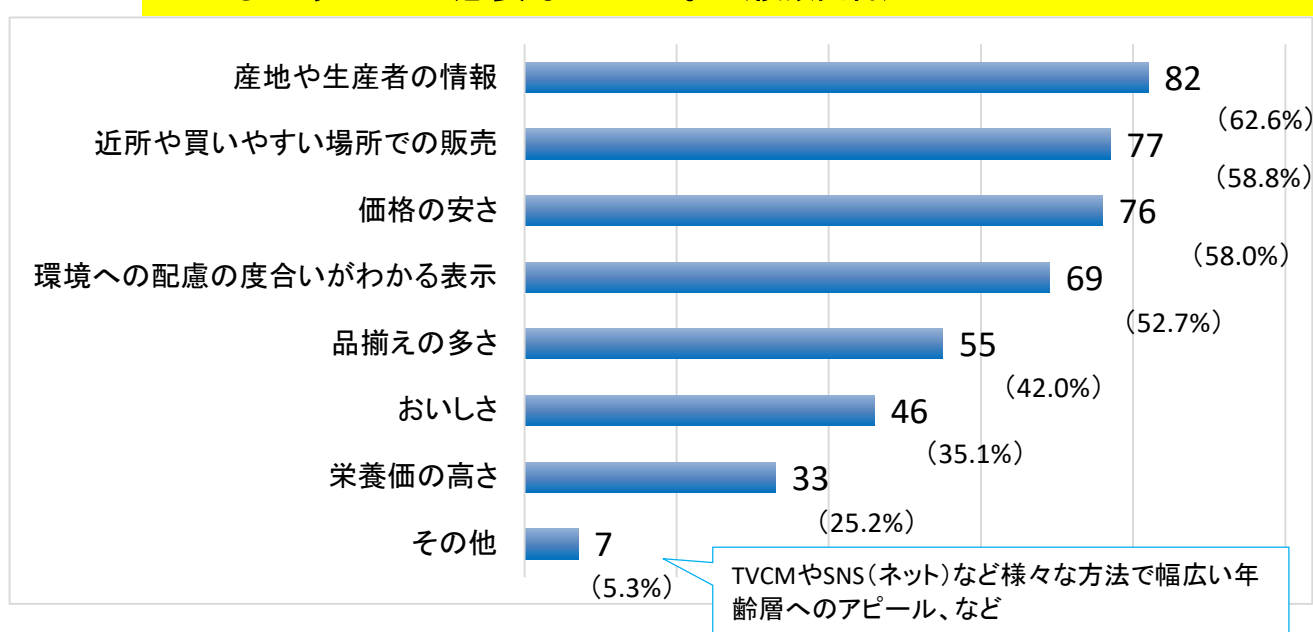
問8 有機農産物を購入したことがない理由は。（複数回答）



問9 有機農産物を購入する際の一般の農産物との価格差は。



問10 多くの人に有機農産物など環境に配慮して生産された農産物を購入してもらうために必要なことは。（複数回答）



問11

環境に配慮した農業（有機農業や化学肥料・化学農薬の使用量低減）の取組について、御意見・御要望等ありましたら記入してください。

（多くの御意見・御要望をいただきました。一部のみ掲載します。）

オーガニックコーナーによく置いてあるけど、一般商品と一緒に置いてあるほうが、普通の人には目につきやすいと思う。興味のない人は、専用コーナーに行かない。

鹿児島島の基幹産業である農業を次世代へ引き継ぐためには、環境負荷の低減と収益性の両立が不可欠です。有機農業等のハードルを下げるため、県独自の認証制度のさらなる周知や、新規就農者が環境配慮型農業に挑戦しやすい研修体制の充実をお願いします。

また、消費者の理解を深めるため、県産農産物の「安全・安心」をデータやストーリーで分かりやすく発信する取り組みを強化し、県民全体で鹿児島島の農業を支える機運を醸成していただきたいです。

物価高が続いているので、低価格がこれまで以上に必要に感じる。健康に良いことは分かっているけど、それに見合った価格設定や広報活動が必要に感じる。

農家さんが報われる世の中になってほしいです。（環境への配慮には高いコストとリスクが伴うと考えるため）

自然の環境を守りつつ、安心・安全な農産物を作るのは生産者にとってとても大変なことで、コストもかかる為、支援が必要だ思う。

それによって市場に出回る量が増え、価格も安定すれば、より多くの消費者が購入するのではないだろうか。

同時に、環境に配慮した農業の意義について、年代問わず広く伝えることも大切だと考える。

日常的な食品買い物において、スーパー、コンビニなどの中に有機農産物のブースを設置出来たら、目に留まりやすいし買おうかということにならないだろうか。安全、安心の地球環境を将来の次世代に渡していくためにも、積極的に利用したい気持ちはある。

この取り組みを知りませんでした。しかし、とても大変なことだと思います。家庭菜園レベルでも化学肥料や農薬に頼らないといけなことが多々あります。素晴らしい取り組みだとは思いますが、消費者に求められているかどうかはまた別です。より安く、見映えの良いものが売れるのかもしれませんが、難しい問題だと思います。

鹿児島市内に住んでいる時は、有機農産物がどこで買えるか分かりやすかったが、他の地域では、分かりにくい。県内どこでも表示の仕方など統一してほしい。

生産量・認知度が低く、生産者が普及活動も行っているイメージがある。行政と生産者で連携して普及・生産量の向上を図れるように動いてほしい。

地球温暖化や生態系への負担が減って、環境への負担を低減した農業の支援にも繋がるのでこれからは少しでも購入したいです。